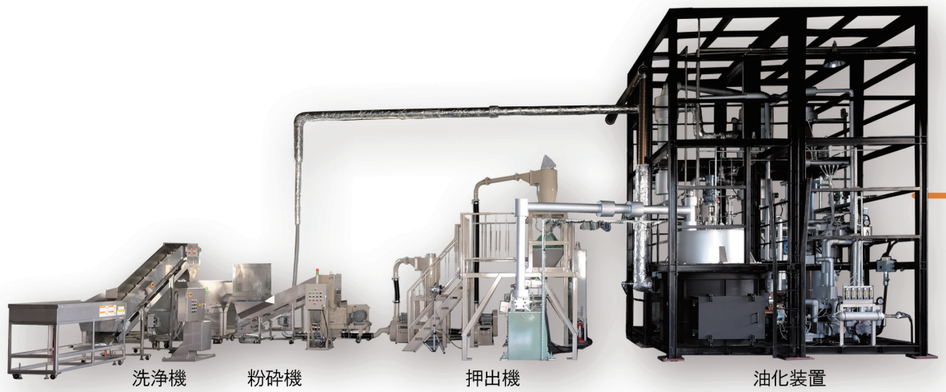
廃プラスチック油化システムの
特徴 REPシリーズ


洗浄機　粉砕機　押出機　油化装置

オイル回収タンク

生成油

特徴1 生成油の使用用途

ナフサはプラスチック原料、
重質油はディーゼル発電機燃料として
使用可能

化学プラント

ボイラー

重機

特徴2 低温固化しない！先進的な熱分解油化技術

当　社 — 低流動点　2～－7℃
従来式 — 流 動 点　10℃前後

従来の熱分解方式では、冬場の低温下で生成油が
固化する問題があります。（約10℃以下で固化）

当社の特許技術（特許第 6129801号）により、
0℃以下の低温でも固化しない生成油の製造が
可能です。

特徴3 残渣自動抜き取り

油にならず釜に残った残渣を
安全に抜き取り可能

残渣の自動抜き取りにより
昇温及び降温が必要ないので
高効率な連続運転が可能です。

特徴4 油化原料

油化に適したプラスチック：PE,PP,PS

油化に適する主なプラスチックは、PE,PP,PSです。
多層フィルム(PA,EVOH,EVA)も、比率が低ければ油化可能です。
PET、PVCなどは油化には適しません。

LDPE

PE/PP/PS

特徴5 処理能力

廃プラ1kg → 生成油1ℓ
（油収率：約75～85%）

10,000kg/day(500kg/h)の処理能力を持つ油化装置の場合、
1日あたり最大10,000kgの廃プラスチックから
10,000ℓの生成油を生成可能です。

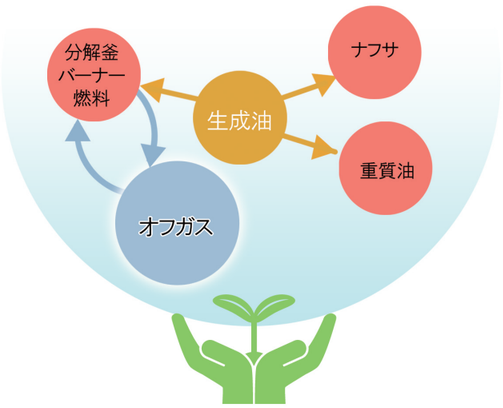
特徴6 安全性

当　社 — 過度の圧力上昇が無い
従来式 — 急激な圧力上昇

圧力上昇が生じた場合でも圧力を逃がせる安全弁を
備えているため過度の圧力上昇が無く安全です。

特徴7 オフガスの有効利用

製造時に発生するオフガスは、
分解釜のバーナーの燃料として使用することで、
エネルギーの効率的な利用が可能となります。
オフガスを大気に放出することなく、
環境にも優しいシステムです。



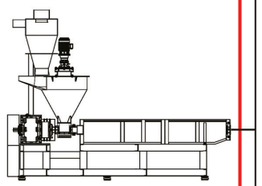
廃プラスチック油化システム

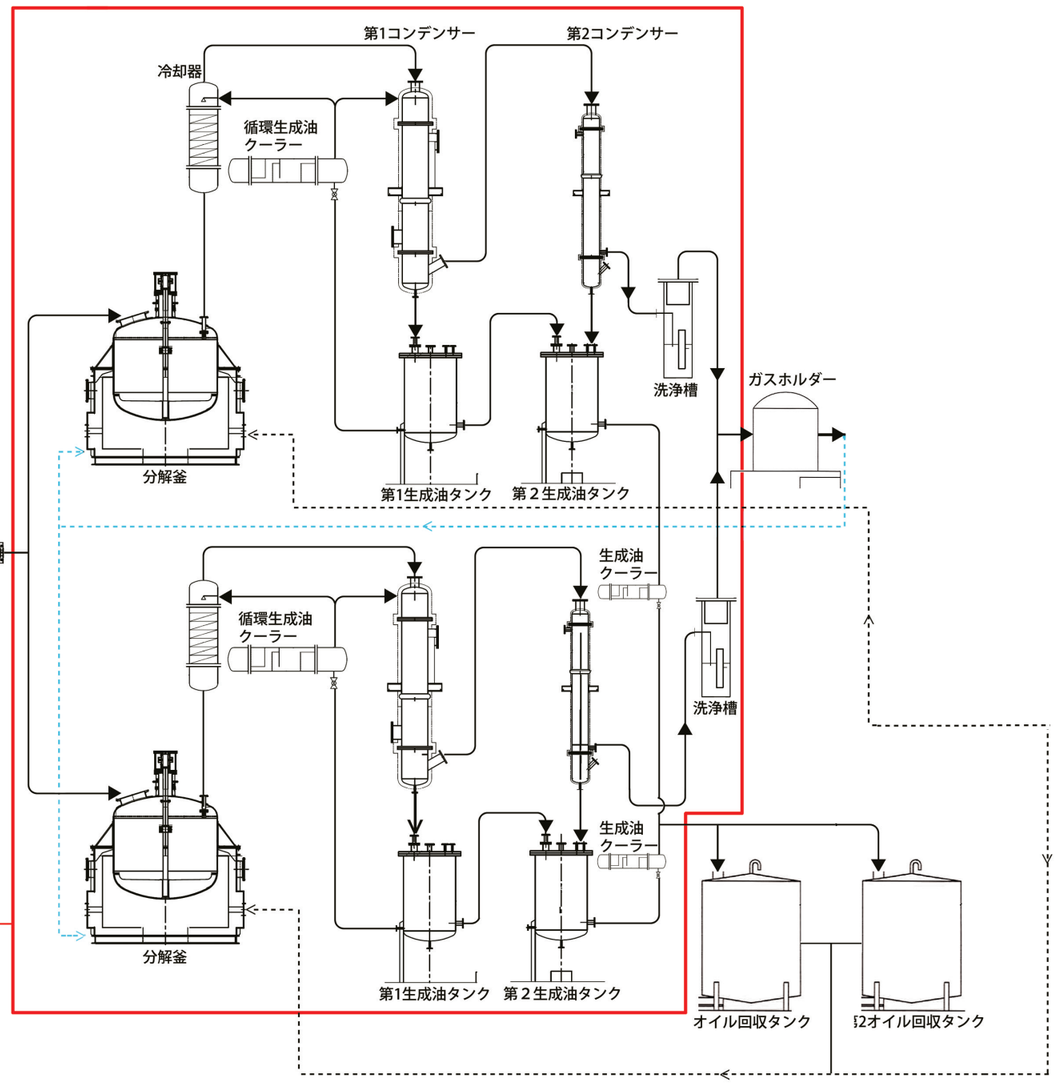
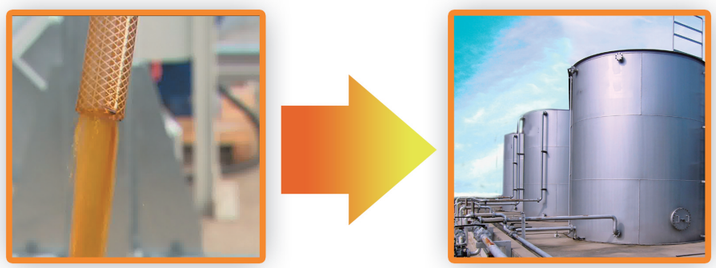
フロー図

モ　デ　ル	REP-10000 500kg/h×20h＝10,000kg/day
仕　　様	搬送スクリュー、油化装置
原　材　料	PE、PP、PS
ナフサ用途	プラスチック原料製造
重質油用途	油化装置オイルバーナー燃料 発電機燃料
オフガス用途	油化装置ガスバーナー燃料
残渣用途	アスファルト原料

油化装置

廃プラスチック



搬送スクリュー

油化装置本体フロー